

## 目次

(下)の発行にあたって	1
序文	2
<b>I 革命理論の外部論と外的認識について</b>	
1 外的認識の特徴	7
2 アルチャーセールの疎外論の本質主義	7
3 ルカーチの「非人間的形態」＝物象化	10
4 マルクスの疎外論の再把握	11
5 疎外論を物象化過程論へ	13
6 物象化過程論の理論的位置	15
<b>II 階級形成論</b>	
1 階級形成論の理論的位置	16
2 階級形成論と戦略論の統一	17
3 これまでの国債的な階級闘争の経験の総括	19
4 分断と競争を許さない階級的団結	21
5 階級形成過程について	21
6 ILO（国際労働機関）の労働組合規定	23
7 分断を超えた労働組合へ	24
<b>III マルクス労働組合論の再評価</b>	
1 マルクスの諸規定	25
2 労働組合と労働者党	27
<b>IV 階級形成論と組織論の統一</b>	
1 行動委員会の中からの党	28
2 統治能力を持つ党へ	29
3 真の共産主義的前衛組織の建設へ	30
付記	
<b>I ルカーチ「階級意識論」批判</b>	
1 レーニン主義的唯物論の理論的補強の失敗作	32
2 ルカーチ「階級意識論」の特徴	34
3 ルカーチ物象化論	34
4 ルカーチの小ブル社会主義的特徴	36
<b>II 概念的把握とはなにか</b>	
1 ヘーゲル批判をヘーゲルの主体批判として	37
2 思弁的哲学の概念について	39
3 人間の思惟過程と思弁的哲学の思惟過程の結合	41
4 レーニン「哲学ノート」の誤謬	43
5 概念の規定	48
6 抽象とは社会的抽象である	48
7 社会的主体の对象的活動	51
8 分析的認識から総合的認識へ	52
9 認識主体としての「結合された眼」と「結合された思惟」	53
<b>III マルクス疎外論と物象化論の相互関係について</b>	
1 疎外論を物象化論へ	54
2 物象化論の規定	56
3 価値を媒介とする物象化論	58
4 価値増殖過程における物象化	67
5 マルクスの物象化過程の段階的整理	69